

これからの生活指導について

「生徒指導提要」の基本的な考え方 S

2024. 9. 生活指導全体会
昭島市立玉川小学校
校長 小瀬 和彦

これからの生活指導の方向性

I 生活指導をめぐる状況

- 1 不登校の急増と長期化
- 2 いじめの増加と深刻化
- 3 暴力行為の低年齢化
- 4 児童・生徒の自殺者数の増加

II 社会の動向

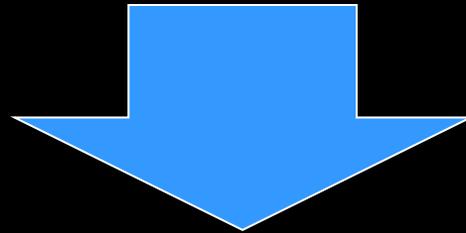
III こらからの生活指導 ～「生徒指導提要」～

I 生徒指導をめぐる状況

I 不登校の急増と長期化

【問いの視点の転換】

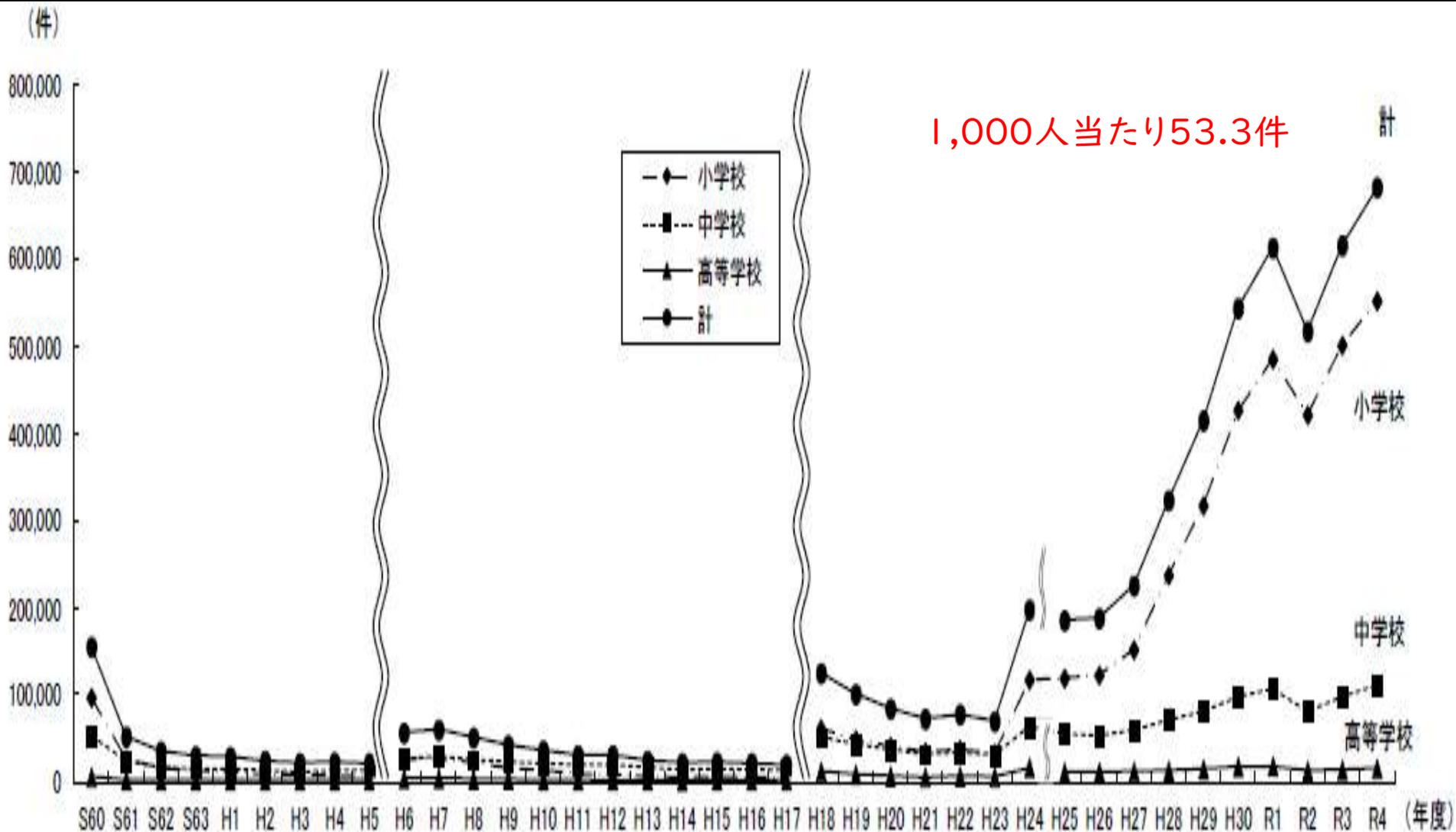
「児童生徒は、どうして学校に来ないのか？」



「児童生徒は、どのような学校であれば来るのか？」

I 生徒指導をめぐる状況

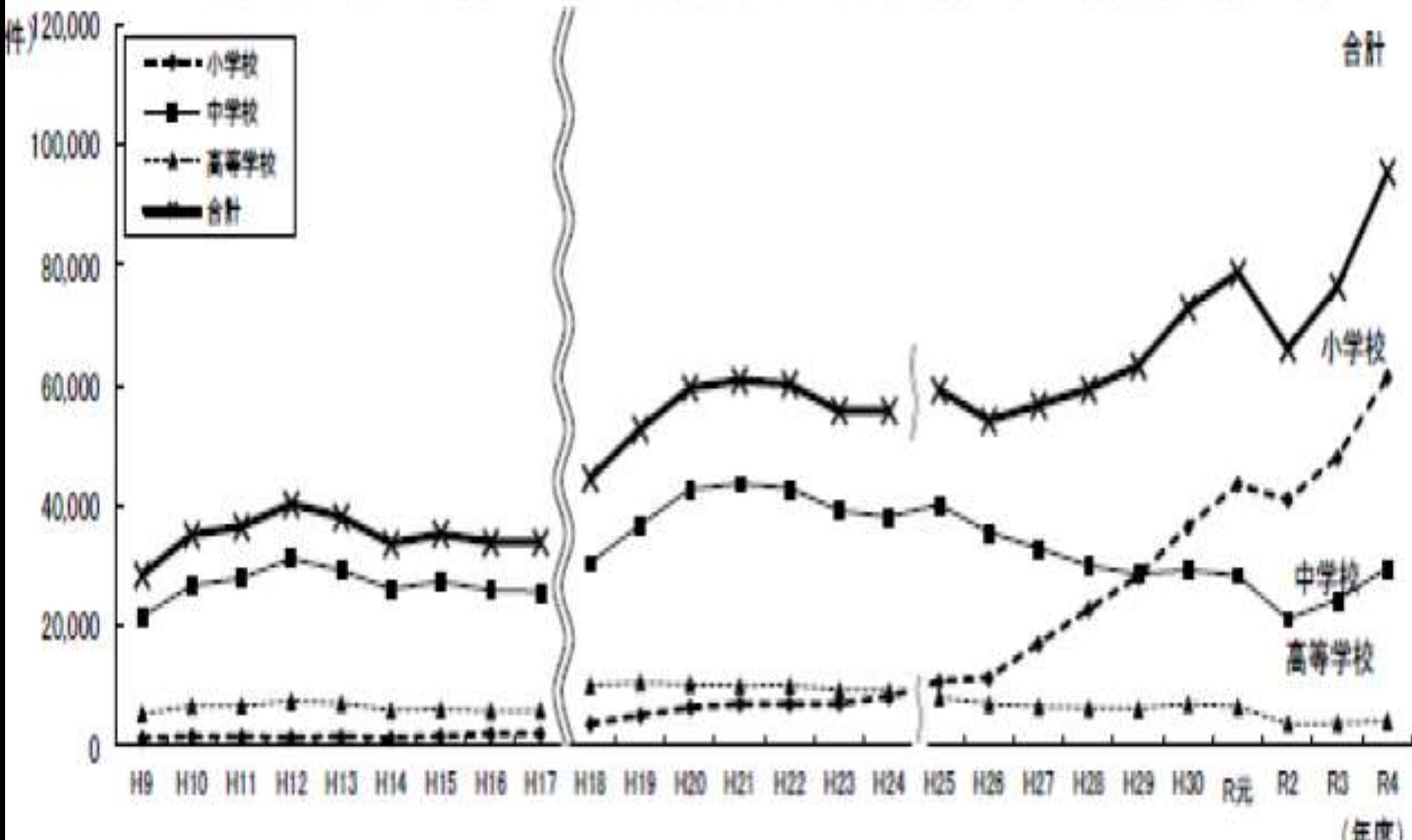
2 いじめの増加と深刻化



I 生徒指導をめぐる状況

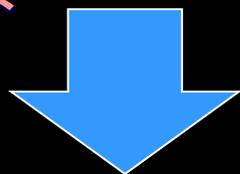
3 暴力行為の低年齢化

(文部科学省:令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)



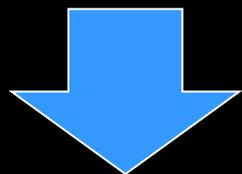
スマホ・ネット・SNS・ゲームに依存する心理

身体の一部となったスマホ……「依存症」傾向
心理的同棲感、分離不安



仮想的な空間での濃密な人間関係

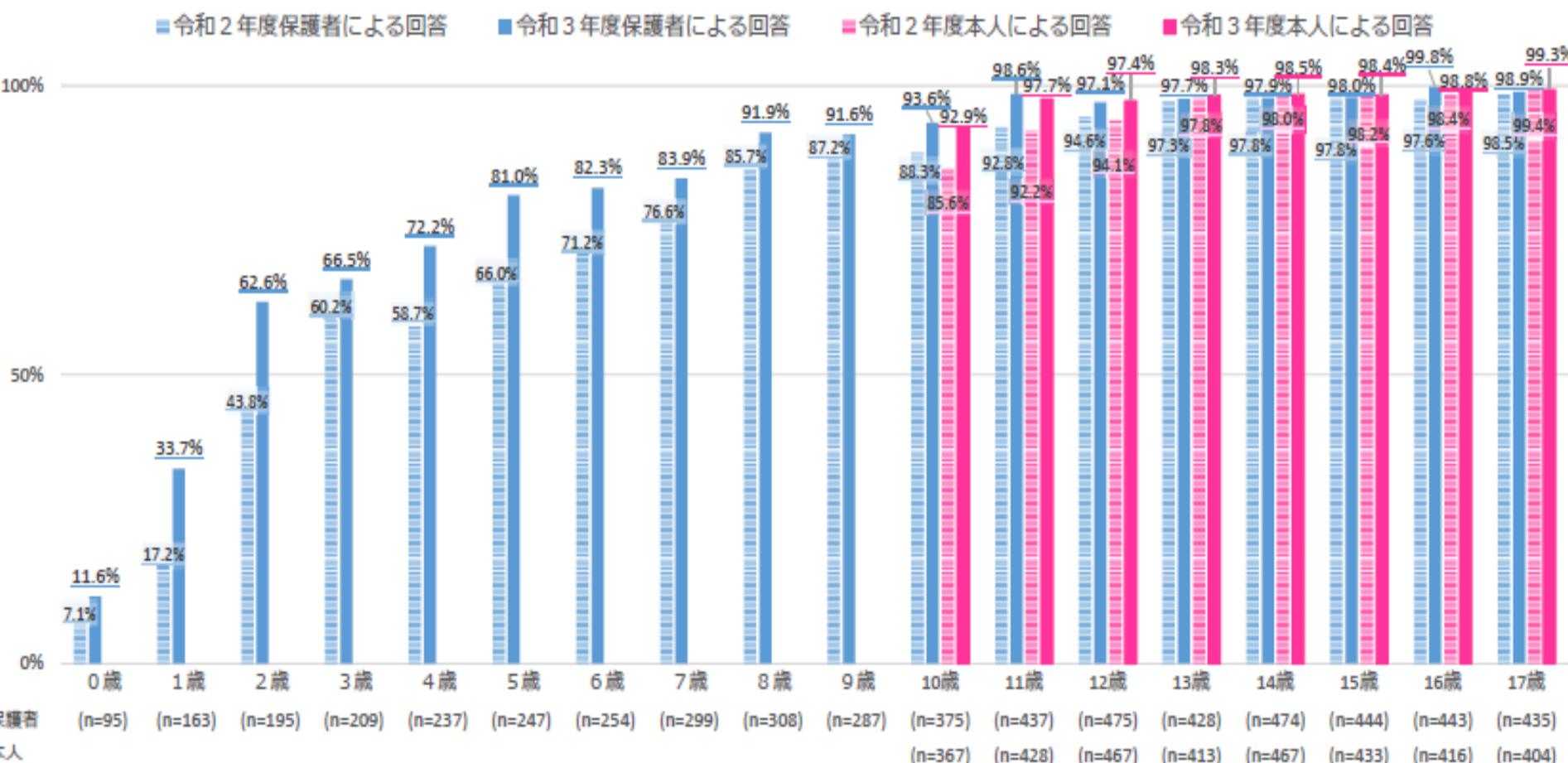
直接体験を通じた人間関係づくりの機会の減少



現実の捉え方（生命や時間の一回性）の認識の歪み
対面的な人間関係における折り合いの付け方の未成熟

- 年齢が上がるとともにインターネットの利用率も高くなる傾向。
- 乳幼児の増加が目立っており、1歳児が前年度と比べて16.5ポイント増加で33.7%、2歳児が前年度と比べて18.8ポイント増加で62.6%。
- 本人（10歳以上）による回答と保護者による回答では、認識に大きな差はない。

インターネット利用率（年齢別・令和2年度から令和3年度）

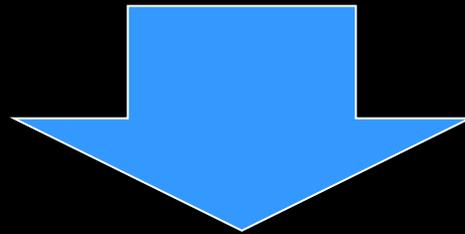


I 生徒指導をめぐる状況

4 児童生徒の自殺者数の増加

【問いの視点の転換②】

「社会で子供が幸せになるにはどうしたらよいか？」



「私たちが創ってきた社会は子供にとって、本当に幸せな社会なのか？」

Ⅱ 社会の動向

- 人口知能（AI）・ビッグデータ・Internet of things・ロボスティクス
- 地球規模の課題：飢餓・感染症・気候変動・自然環境や資源の有限性・紛争・戦争等
- 超少子高齢化、働き方改革

Ⅲ これからの生活指導～「生徒指導提要」～

- (1) 児童生徒が自発的・主体的に成長・発達する過程を支える意図でなされる生徒指導の展開
- (2) 学習指導と生活指導の一体化
- (3) 「チーム学校」による生活指導体制の構築

生徒指導の重層的支援構造

特定の児童・生徒

高

困難課題対応の生徒指導

即応的
継続的
リアクティブ

課題早期発見対応（指導）

課題性

課題予防の生徒指導

常態的
先行的
プロアクティブ

発達支持的生徒指導

低

全ての児童・生徒

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

(1) 児童生徒が自発的・主体的に成長・発達する過程を支える

意図でなされる生徒指導の展開 「成長・発達を支える指導」

生徒指導の重層的支援

発達支持的生徒指導

発達支持的生徒指導

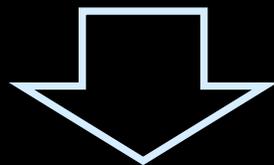
全ての児童・生徒を対象に、児童・生徒への挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話や授業や行事を通じた個と集団への働きかけが大切になる。

Ⅲ これからの生活指導

発達支持的生徒指導

全ての児童・生徒を対象に、児童・生徒への挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話や授業や行事を通じた個と集団への働きかけが大切になる。

自己理解力や自己肯定感、コミュニケーション力、他者理解力、人間関係調整力、思いやり、共感性、目標達成力、問題解決能力などを含む資質・能力を



日々の授業、特別活動や道徳科、総合的な学習の展開、人権尊重教育、主権者教育と密接に関連させて育成していく。

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

生徒指導の重層的支援

課題予防的生徒指導

いじめ防止教育、SOSの出し方教育を含む自殺予防教育、情報モラル教育、非行防止教室等が該当する。

年間指導計画に位置付け、実践することが重要である。

発達支持的生徒指導

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

生徒指導の重層的支援

課題早期発見対応（指導）

課題の予兆行動が見られたり、問題行動のリスクが高まったりするなど、気になる一部の児童を対象に、深刻な問題に発展しないように、初期の段階で課題を発見し、対応する。

課題予防的生徒指導

発達支持的生徒指導

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

課題早期発見対応（指導）

例えば、ある時期に成績が急落する、遅刻・早退・欠席が増える、身だしなみに変化を生じたりする児童・生徒に対して、いじめや不登校、自殺などの深刻な事態に至らないように、早期に教育相談や家庭訪問などを行い、実態に応じて迅速に対応する。

早期発見では、質問紙に基づくスクリーニング（早期発見・洗い出し）テストや、SCやSSWを交えたスクリーニング会議によって気になる児童・生徒を見出して、指導・援助につなげる。

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

課題早期発見対応（指導）

例えば、ある時期に成績が急落する、遅刻・早退・欠席が増える、身だしなみに変化を生じたりする児童・生徒に対して、いじめや不登校、自殺などの深刻な事態に至らないように、早期に教育相談家庭訪問などを行い実態に応じて迅速に対応する。

早期発見では、質問紙に基づくスクリーニング（早期発見・洗い出し）テストや、SCやSSWを交えたスクリーニング会議によって気になる児童・生徒を見出して、指導・援助につなげる。

◇ 機動的連携型支援チーム：管理職の指示の下、学級担任と生活指導主任が協働して、チームで機動的に対応する。

◇ 校内連携型支援チーム：管理職の指示の下、生活指導主任、生活指導部、教育相談コーディネーター、特別支援コーディネーターSCやSSWなどチームで組織的に対応する。

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

生徒指導の重層的支援構造

困難課題対応的生徒指導

課題早期発見対応（指導）

課題予防的生徒指導

発達支持的生徒指導

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

困難課題対応的生徒指導

いじめ、不登校、少年非行、児童虐待、など特別な指導・援助を必要とする特定の児童・生徒を対象に、校内の教職員（教員、SC、SSW等）だけでなく、校外の教育員会、警察、病院、児童相談所、NPO等の関係機関との連携・協働による課題対応を行う。

◇ 校内連携型支援チーム：管理職の指示の下、生活指導主任、生活指導部、教育相談コーディネーター、特別支援コーディネーター-SCやSSWなどチームで組織的に対応する。

◇ ネットワーク型支援チーム：管理職の指示の下、校外の専門家を有する関係機関と連携・協働したネットワーク型支援チームで対応する。

生徒指導の重層的支援構造

特定の児童・生徒

高

困難課題対応の生徒指導

即応的
継続的
リアクティブ

課題早期発見対応（指導）

課題性

課題予防の生徒指導

常態的
先行的
プロアクティブ

発達支持的生徒指導

低

全ての児童・生徒

Ⅲ 「生徒指導提要」が目指す方向

(1) 児童生徒が自発的・主体的に成長・発達する過程を支える意図でなされる生徒指導の展開

(2) 学習指導と生活指導の一体化

(3) 「チーム学校」による生活指導体制の構築

(2) 学習指導と生活指導の一体化

以前：訓練して規律を育てる(訓育)

生活指導 = これから：Guidance & Counseling
(指導と相談)

(2) 学習指導と生活指導の一体化

学校教育において、生徒指導が学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は深く関わっている。

各学校においては、生徒指導が、一人一人の児童の健全な成長を促し、児童自ら現在および将来にわたる自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導のいふいを踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、学習指導と関連付けながら、その一層の充実を図っていくことが必要である。

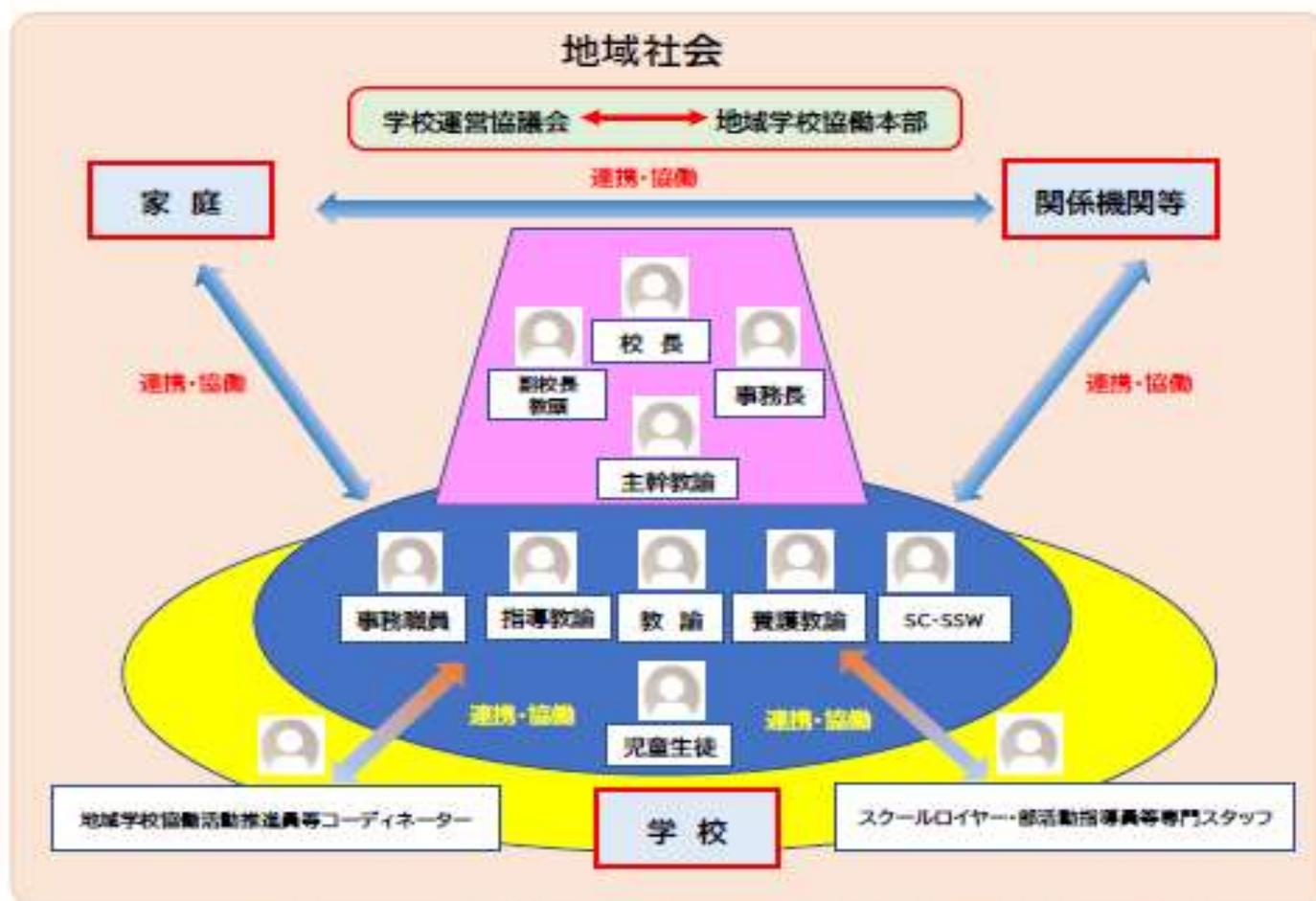
(2) 学習指導と生活指導の一体化

学習指導と生活指導 両輪から 一体化へ

生徒指導の目標＝ 自己指導能力の育成

「児童生徒が深い自己理解に基づき、『何をしたいのか』、『何をすべきか』主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択、設定してこの目標の達成のため、自発的・自律的、かつ他者を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち『自己指導能力』を獲得することが目指されます。」 『生徒指導提要』 p.13.

(3) 「チーム学校」による生活指導体制の構築

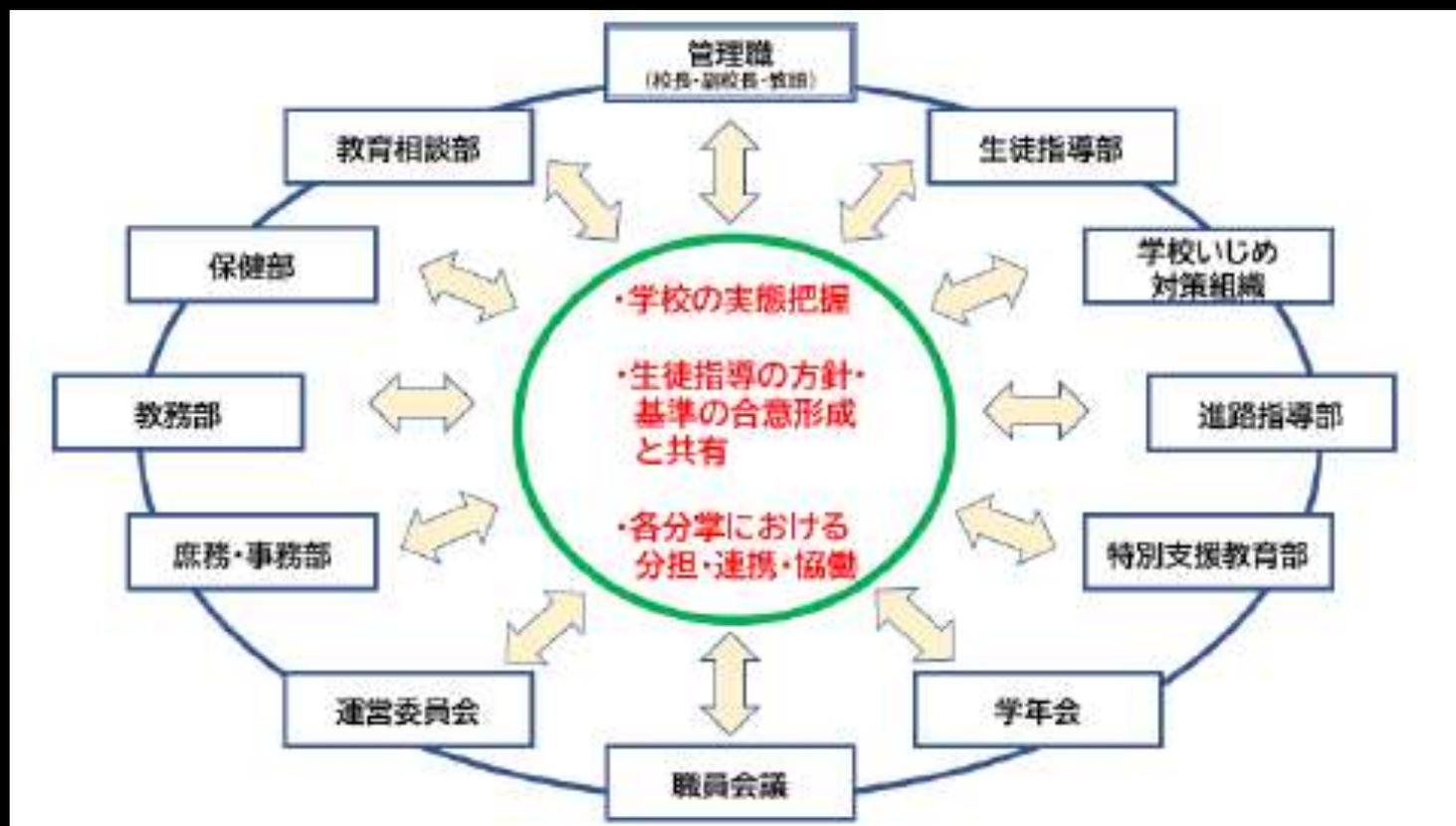


チーム学校における組織イメージ

(『生徒指導提要(改訂版)』p.69 2022)

(3) 「チーム学校」による生活指導体制の構築 校内の生活指導体制

＝「生徒指導部の組織構成や取組体制だけを意味するものではなく、それらを含め、全ての児童生徒を対象に全校的な指導・援助を展開する体制」



これからの生活指導について

「生徒指導提要」の基本的な考え方 F

2024. 9. 生活指導全体会

玉川小学校 校長
小瀬 和彦